

推薦します！

後藤道夫 (都留文科大学名誉教授)

世取山さんは、若い研究者たちをリードしながら、「教育の無償」の法体系・行政枠組・権利体系の福祉国家型理論を作り上げました。旧来の開発主義的教育制度とその新自由主義的改革を同時に批判できる、新たな教育法制の骨格です。多くの方に読まれますように。

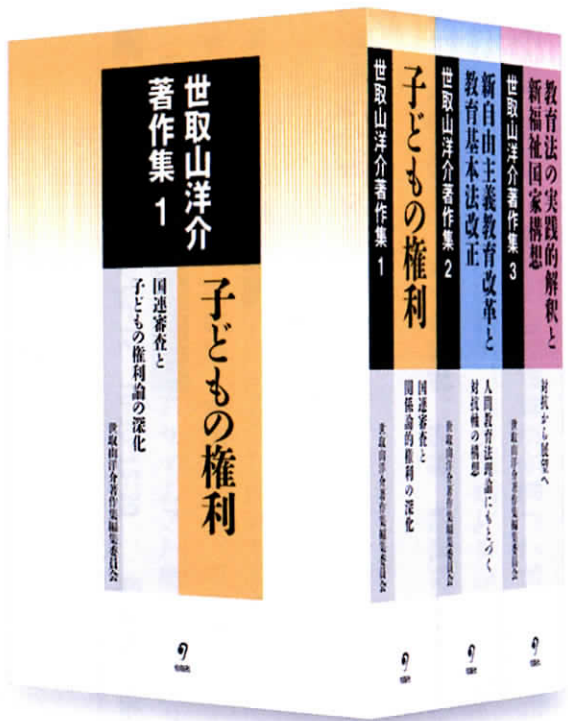
増山均 (子どもの権利条約市民・NGOの会共同代表)

子どもの権利条約市民・NGOの会が関連に届けた全ての報告書は、会の理論的・組織的リーダーだった世取山洋介さんの獅子奮迅の働きがなければ実現しませんでした。この著作集の発刊によって、「子どもの権利」実現に心血を注ぎ、魂を込めた世取山さんの理論的核心を知ることができるよう。

安達和志 (神奈川大学名誉教授、日本教育法学会会長)

著者の研究分野は多岐にわたり、子どもの権利条約をめぐる子どもの権利論、新自由主義教育改革に対する教育政策的な洞察などに、著者独自の鋭い分析が示されてきました。さらに、アメリカ公民教育法に関する批判的論考をはじめ、教育の自由を基調とした人間教育論の展開は著者の教育法学の特色をなすものです。大きなスケールをもつ世取山教育法学は未完となりましたが、この著作集が教育法学の発展の重要な礎となることを確信します。

# 世取山洋介著作集 全3巻



## 教育の危機の時代に 歩むべき指針を示す

2024年2月発売

### 世取山洋介著作集

A5判上製 全3巻セット  
定価19,800円(税込) ISBN978-4-8451-1856-4

#### 第1巻 子どもの権利

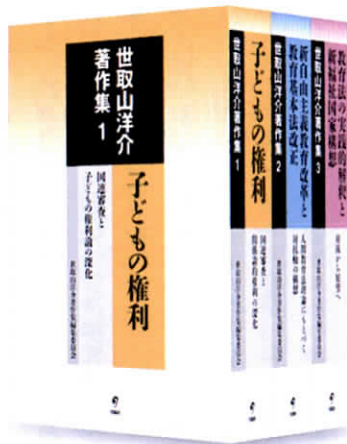
—国連審査と子どもの権利論の深化 530頁  
定価6,600円(税込) ISBN978-4-8451-1853-3

#### 第2巻 新自由主義教育改革と教育基本法改正

—人間教育法理論にもとづく対抗軸の構想 506頁  
定価6,600円(税込) ISBN978-4-8451-1854-0

#### 第3巻 教育法の実践的解釈と新福祉国家構想

—対抗から展望へ 546頁  
定価6,600円(税込) ISBN978-4-8451-1855-7



子どもの権利論や教育法理論などで大きな功績を残し、2021年に急逝した教育法学者・世取山洋介氏の遺稿著作集。書籍、雑誌などに執筆した中心的な論考を全3巻に編纂。各巻には編集委員による解説を付す。



### 世取山洋介著作集編集委員会

代表／堀尾輝久(東京大学名誉教授)  
事務局長／佐貫浩(法政大学名誉教授)  
編集委員／石井拓児(名古屋大学教授)、小泉広子(桜美林大学教授)、高橋哲(大阪大学准教授)、谷口聡(中央学院大学准教授)、中川律(埼玉大学准教授)、宮澤孝子(宮城教育大学准教授)、山岸利次(長崎大学准教授)、山本山美(和光大学教授)／50音順

### お申込書 世取山洋介著作集 全3巻

全3巻	第1巻	子どもの権利	冊
	第2巻	新自由主義教育改革と教育基本法改正	冊
	第3巻	教育法の実践的解釈と新福祉国家構想	冊
お名前		お電話	
ご住所 〒			

お求めは最寄り、出入りの書店へお申込ください。

旬報社 東京都新宿区早稲田鶴巻町544 TEL: 03-5579-8973 FAX: 03-5579-8975

# 1 子どもの権利

関連著作と子どもの権利論の深化

## 第1部 関係的子どもの権利論

第1章 子どもの権利（平和・人権・環境教育国際資料集より）

第2章 子どもの意見表明権のVygotsky心理学に基づく存在論的正当化とその法的含意

第3章 子どもの権利論の基本問題をめぐって——「服従かさもなく解放か」あるいは関係の質的改革か

## 第2部 子どもの権利論、その後の展開

第4章 堀尾教育権論の「継承と発展」——共同のための自由と子どもの主体性

第5章 子どもの権利——比較のなかの日本の子どもの固有の権利論

## 第3部 C.R.C.最終所見に関して

第6章 子どもの権利論による最終所見と審査の受けとめ

第7章 国連子どもの権利委員会「第3回最終所見」の生かし方（講演）

第8章 格差社会日本における「子ども期の貧困化」——国連子どもの権利条約と安倍第2次政権

第9章 第4・5回最終初見に込められたメッセージ

## 第3-2部 条約を実現するための措置と制度

第10章 総合的な政策調整や実施を監視するシステム

第11章 子どもが自分で利用できる権利救済機関

## 第4部 乳幼児の権利・保育

第12章 国連子どもの権利委員会「一般的注釈第7号」——乳幼児期における子どもの権利の実施と保育の民営化

第13章 国連子どもの権利委員会「乳幼児期における子どもの権利の実施」に関する一般的注釈第7号（翻訳）

第14章 基礎から学ぶ子どもの権利条約と保育

## 第5部 子どもの権利条約

第15章 東京都子ども基本条例をめぐって

第16章 子どもの権利条約のこれまでと国立市におけるこれから（講演） 2021年10月15日

## 第6部 コロナ禍と子どもの権利

第17章 新型コロナウイルス感染症の拡大と子どもの権利

解説 子どもと権利論の展開 山本由美

解説 子どもと権利条約をめぐる著作について 小泉広子

## 2 新自由主義教育改革と教育基本法改正

人間教育法理論にもとづく対抗軸の構想

## 第1部 人間教育法の理論

第1章 アメリカ公立学校と市民的自由——公民教育法における修正第一条法の展開

第2章 北海道学テ事件最高裁判決の現代的意義——なぜそれは教育裁判にわたっての「コナー・ストーン」なのか？

第3章 自民党改憲案が迫る公教育の変質

第4章 教育人権と新自由主義教育改革

第5章 教育法学の境界——新自由主義教育改革の新段階のものでの再定位

## 第6章 解説

## 第2部 新自由主義教育改革の理論と対抗軸

第7章 アメリカ新自由主義教育改革における教育内容基準運動と「サンクション」としての学校選択

第8章 国立大学法人法（制）と「学問の自由」

第9章 新自由主義教育政策を基礎づける理論の展開とその全体像

第10章 新制度派経済学に基づく教育制度論の批判と代替的理論の展望——外からの改革と内からの改革

第11章 アメリカにおける新自由主義教育改革へのふ

たつての対抗軸——学校における共同と教育における平等

## 第3部 教育基本法の立憲主義的解釈

第12章 教育基本法総説

第13章 教育改革および教育基本法改正論の新自由主義的側面の批判的検討

第14章 新教育基本法の国会審議の分析——その立憲主義的解釈の基礎作業として

第15章 新自由主義教育改革、教育三法、そして教育振興基本計画

第16章 第1条（教育の目的）

第17章 Dynamics of Three Structures of Responsibility in Education under the New Basic Law of Education

第1部解説 人間教育法の理論——教育法学のダイナミズムの追求——高橋哲

第2部解説 新自由主義教育改革の本質の解明

第3部解説 立憲主義的解釈という思惟について 中川律

## 3

教育法の実践的解釈と新福祉国家構想  
対抗軸と展望へ

## 第1部 教育の自由・学問の自由

第1章 意見書「日の丸・君が代」に関する過去の処分歴を理由とする処分量定の加重の合法性について——その教育法的検討

第2章 甲第二三三三号証 七生養護学校事件に関する意見書

第3章 九州朝高生就学支援金差別国家賠償請求裁判意見書

第4章 第165回国会参議院教育基本法に関する特別委員会第7号参考人招致発言

第5章 第145回国会衆議院青少年問題に関する特別委員会第4号参考人招致発言

## 第2部 聖域・体罰・道徳教育・ゼロトレランス

第6章 校則「違反」と懲戒処分——高知オートバイ規制校則訴訟判決（高知地裁昭和六三年六月六日判決）を題材に

第7章 学校教育における手続的デュープロセス法理の展開

第8章 ゼロ・トレランスに基づく学校懲戒の受容の教育法的検討

第9章 「特別の教科」道徳の現段階とその批判的検討

第10章 教育の直接責任制を学校に「埋め戻す」——二〇二二年新潟県立高校生自殺事案第三者調査委員会「報告」から

## 第3部 教育条件整備

第11章 教育という現物給付

第12章 教育条件整備基準立法なき教育財政移転法制——成立、展開、そして、縮小と再編

第13章 公教育の無償性と憲法

第14章 公教育の無償性を実現する新しい法制備の骨格

第15章 教育財政の地方分権化

第16章 教育の「無償性」と「無償化」

第17章 学校外教育組織の法認と「学校」の応答性の喪失——教育機会確保法の批判的検討

第18章 学級という空間の融解、あるいは、子どもの欲求の不可視化

第1部解説 世取山教育法における実践的認識とその展開 石井拓晃、小泉広子、中川律

第2部解説 世取山教育法における学校懲戒研究 山岸利次

第3部解説 新自由主義教育改革の突破口——世取山教育法における教育条件整備研究——宮澤孝子

# 刊行にあたって

編集委員会代表・堀尾輝久 事務局長・佐貫浩

この著作集は、世取山洋介さんが、2021年11月に急逝するまでに、全力を傾けて考察し、体系化しようとしてきた教育法学研究をはじめとする教育理論研究の成果を編集・収録したものです。

世取山さんは、新自由主義教育改革に正面から立ち向かい、憲法的人権に立った人間教育を切り拓く教育法学研究を続け、日本における新自由主義教育改革批判の論理と、その対抗軸を具体的に提示しようと務めてきました。また子どもの権利条約を日本社会に広げ実現していく運動を担い、子どもの権利論の発展に力を注いできました。そして教育の自由と教育人権を守るために、教育裁判の法廷に立ち、実践的法解釈の領域でも鋭い論戦を展開してきました。さらに新自由主義教育改革が「金銭の支配力」を行使する権力的性格を高めていることに対して、教育の自由を実現するための条件整備行政と教育費保障の論理と仕組みを教育費研究を通して解明する道を拓いてきました。

世取山さんが構築してきた理論的到達点は、今日の教育実践と教育運動、教育裁判、新自由主義教育改革とのたたかい、子どもの権利条約を実現する運動の中で、問題の本質を解明し、運動と実践を意識化し、励ます力となって生き続けています。

彼を失ったことは、私たちにあって、大きな痛手だと改めて痛感しています。そのころざし半ばで倒れた無念を思わずにはいられません。その思いや達成を継承し、さらに発展させていくことは、彼の願いを引き継ぐことです。この著作集の発行が、そのための拠り所になることを念じています。多くの方がこの著作集を手になされ、その理論を継承・発展させていく協同の議論に参加されること、また普及にご協力くださいますことを、心よりお願いいたします。

## 世取山洋介（よとりやま、ようすけ）

教育法学者。元新潟大学教授。ハーバード・ロースクール客員フェローなどを歴任。子どもの権利条約市民・NGOの会事務局長として、子どもの権利の確立に尽力。日本教育法学会前事務局長。編著に「新自由主義教育改革」[公教育の無償性を実現する]（すずも六月書店）[コンメンタル教育基本法]（学陽書房）など。2021年11月逝去